中部地域の普及活動（普及活動月報）

令和８年１０月　中部農林振興局
（中部農業改良普及センター）

目次

Ⅰ　管内農業・農村の主な動き　（Ｐ2～3）
1　宮崎県農業経営指導士3支部（中部・児湯・南那珂）研修会
2　令和8年度宮崎方式営農支援体制中部地区農業者研修
3　新規就農者へのフォローアップ面談
4　さといもの品種比較展示ほ検討会
5　10月期子牛せり市
6　宮崎中央家畜市場子牛品評会
7　製茶機械メーカーを視察
8　JAみやざき宮崎中央地区本部マンゴー部会生産販売実績検討会

Ⅱ　主な普及指導活動等の取組み
1　地域プランに基づく普及活動　（Ｐ4～7）
1　農業研修生の巡回
2　高岡トップレベル研修会　フォローアップ
3　JAみやざき宮崎中央地区本部高岡胡瓜研究会定例会
4　JAみやざき宮崎中央地区本部国富支店ピーマン青年部現地検討会
5　JAみやざき宮崎中央地区本部洋ラン部会現地検討会
6　中部地区サツマイモ基腐病対策会議
7　中部地区畑作営農改善推進協議会企画班会
8　食品加工事業者へ加工業務用野菜受入状況等調査
9　水田裏作のタマネギ試験栽培ほ場の設置
10　新木地区基盤整備事業推進委員会
11　水田裏作のブロッコリー、ケール試験栽培ほ場の設置
12　綾オーガニックスクールで水稲坪刈り調査
13　有機露地ナスほ場における害虫・天敵調査
14　ダイコン栽培基礎講習会
15　新規就農者の就農状況調査（綾町）
16　綾オーガニックスクール企画運営委員会定例会

2　地域課題一覧に関する普及活動　（Ｐ8～9）
1　国富町で飼料用稲種子生産の支援
2　せんぎり大根生産者大会
3　水の郷綾施設有機きゅうり研究会がMIYAZAKI-GAP団体認証を取得
4　JAみやざき宮崎中央地区本部菊部会国富支店の現地検討会
5　JAみやざき宮崎中央地区本部ダリア目揃え会及び販売会議
6　木花地区有害鳥獣被害防止対策研修会

Ⅰ　管内農業・農村の主な動き

1　宮崎県農業経営指導士3支部（中部・児湯・南那珂）研修会

27日、児湯管内において開催され、中部支部から２名が参加しました。

現地調査では、児湯支部の指導士（株）イニーファームの橋口氏（施設ピーマン）及び合同会社オーガニックファームZERO（有機農業）の宮本氏から、それぞれの経営の取組等について紹介いただきました。

意見交換会では、現地調査で感じたことや取り入れたいこと、人材確保や生産振興における農業経営指導士と普及員との連携について、グループワークを行いました。

現地調査・意見交換会ともに、多くの意見が出され、大変有意義な研修会となりました。



【３支部研修会　現地調査】

2　令和8年度宮崎方式営農支援体制中部地区農業者研修

８日、新規就農基礎研修の最終講座となる「新規就農者制度／新規就農総合対策」「農地制度」「就農計画作成」に関する研修会を実施し、19名が受講しました。

いずれも、認定新規就農者を目指す方々にとっては欠かせない内容となっており、受講生は熱心に講師の説明を聞いていました。



【就農計画作成研修】

3　新規就農者へのフォローアップ面談

６日、国富町の新規就農者のうち、フォローアップ対象者として選定した３名に対し、国富町役場およびJA新規就農担当者とともに個別面談を実施し、現時点で気がかりとなっていることの聞き取りや前年の収支決算をもとにした経営の振り返り、今作の目標設定への支援を行いました。

今後は、２月にほ場巡回を実施し、設定した目標への取組状況確認を行うこととしており、新規就農者の早期経営安定に向けた支援を関係機関と連携しながら継続していく計画です。



【フォローアップ面談】

4　さといもの品種比較展示ほ検討会

１日、総合農業試験場畑作園芸支場において、JAや各普及センター等のさといも担当者17名が参加し、開催されました。

各地域展示ほにおける生育状況や調査データの報告が行われ、「石川早生」の作柄や中生種「大和39」の推進方針等について意見交換しました。この中で、JAが求める品質（Ｓ玉で小さく丸い芋）や各地域の課題が共有され、出荷が９月に集中する生産者等を対象とした「大和39」の推奨・推進に向けた協議を行いました。

今後は、12月頃に収量調査結果も踏まえた実績検討会の開催を予定しており、引き続き各地域での適応性検証や栽培技術の確立に向けた取り組みを進めていきます。

5　10月期子牛せり市

９日と10日の２日間、宮崎中央家畜市場で開催され、合計619頭（雌：278頭、去勢：341頭）の出場がありました。

セリ前講習会では、JA畜産部長から概況等の説明、続いて普及センターから「腹作りを考える２」と題して６ヶ月齢からの粗飼料の増給について講習を行いました。

子牛平均価格（税込）は、雌799千円（前回比27千円安）、去勢876千円（前回比11千円安）、総平均842千円（前回比19千円安）という結果になりました。



【講習会に参加する生産者】

6　宮崎中央家畜市場子牛品評会

14日、ＪＡみやざき宮崎中央地区本部と綾町地区本部との合同開催による11月期子牛せり市に向けた10月期子牛品評会が家畜市場で開催されました。

審査の結果、国富支店の関谷直樹氏の「かな」号（桃白鵬産子）が優等１席を受賞しました。審査委員長から「発育良好で体の幅、深さ、長さなど体積豊かで、種牛性にも優れていた」との講評がありました。



【優等１席「かな」号】

7　製茶機械メーカーを視察

５日から７日まで、JAみやざき宮崎中央地区本部茶部会と中部地区営農振興協議会特用作物部会の合同による県外視察研修を、静岡県で行いました。

製茶機械メーカーを訪問し、製造工程や受注状況について説明を受けました。抹茶需要の高まりにより碾茶製造用機械の納入に３年程度を要する状況の中、生産者は最新式の蒸機や粉末機、大型製茶機械を熱心に見学しました。研修参加者から、煎茶機械の特性や更新方法について等の質問が出され、理解が深まったようでした。



【製茶機械の説明中】

8　JAみやざき宮崎中央地区本部マンゴー部会生産販売実績検討会

13日、宮崎市において、部会員57名、関係機関16名、関係者６名が出席し、開催されました。

今年産は６月の台風や曇雨天により数量及び販売金額が減り、販売金額は15億円となりましたが、部会平均の太陽のタマゴ率は29.1%、平均糖度16.1度と、今年も高品質な果実を生産できました。

今後も 引き続き、高品質高収量を目指し、支援を行っていきます。



【生産販売実績検討会】

Ⅱ　主な普及指導活動等の取組み

1　地域プランに基づく普及活動

【重1・日本一のきゅうり産地維持のための生産性と収益性の両立】

1　農業研修生の巡回

19日、宮崎中央地域農業再生協議会担い手部会の農業研修生２名（施設きゅうり、トルコギキョウ各１名）に対して、JAおよび市担当者とともに、派遣研修先である先進農家を訪問し、研修状況の確認を行いました。研修生からは、先進農家から多くを学ぼうと意欲的に取り組んでいる様子がうかがえました。

今後も、関係機関と連携して毎月巡回を実施し、研修実施状況の確認を継続する計画です。



【研修生巡回（きゅうり）】

2　高岡トップレベル研修会　フォローアップ

28日、８月の高岡トップレベル研修会の欠席者２名を対象にハウス訪問によるフォローアップを実施しました。JA指導員とも連携し、アドバイスを交えながら前作の振り返りと次作の目標作成を行いました。個別に対話しながら振り返りを行ったところ、対象者からは前向きな目標が設定されるなど、次作に向けた意欲を高める良い機会となりました。今後は２月に経過を確認する計画です。



【フォローアップ訪問】

3　JAみやざき宮崎中央地区本部高岡胡瓜研究会定例会

29日、高岡支店会議室において、生産者10名、関係機関２名が参加し、開催されました。

会長挨拶後に、JAから11月から厳寒期までの栽培管理のポイントについて説明がありました。その後、普及センターからきゅうりのセンチュウ対策について説明しました。生産者から１作目と２作目の間の管理について質問が多くあり、関心の高さがうかがえました。

今後も土壌の還元消毒などのＩＣＭ（総合的作物管理）技術の普及へ向けた支援を行っていきます。



【定例会】

【重2・スマート農業による高収益園芸産地の育成】

4　JAみやざき宮崎中央地区本部国富支店ピーマン青年部現地検討会

28日、国富町春吉アドバイザーのほ場において、生産者16名、関係機関３名が参加し、開催されました。

研究会事務局の挨拶後に、アドバイザーの春吉氏から栽培管理のポイントについて説明がありました。

その後、JAからは今後の気象について、普及センターからはピーマンの栽培環境データをもとに今後の温度管理のポイントや炭酸ガス施用の有用性について説明しました。ピーマンの生育は、節間がしまり、株も充実した状況であり、生産者間で活発な意見交換が行われ、栽培管理への理解が深まったようでした。

今後も環境制御技術の導入による生産性向上への支援を行っていきます。



【現地検討会】

5　JAみやざき宮崎中央地区本部洋ラン部会現地検討会

29日、宮崎市において、生産者15名、関係機関３名が参加し、開催されました。

JAから直近のコチョウランの出荷の情勢報告が行われた後、PR活動など今後の部会活動の検討が行われました。普及センターからは、関係機関で再生産価格の算出に取り組む旨を説明し、JAとともに協力を呼びかけた結果、若手３戸で取り組んで行くことになりました。

その後、コチョウランの生育状況を確認し、管理状況等について活発な意見交換が行われました。



【現地検討会】

【重4・マーケットインに基づく土地利用型営農の振興】

6　中部地区サツマイモ基腐病対策会議

21日、普及センターにおいて、関係機関の担当者等を参集し開催し、関係機関17名が参加しました。

今年度の基腐病発生状況やかんしょの生育状況、普及センターが実施した展示ほの結果について情報提供と共有を行いました。

また、11月に予定しているかんしょ栽培講習会の実施場所や内容について協議を行い、今後は各市町を交えた研修会を開催する予定です。

引き続き、地域一丸となった基腐病対策と安定生産に向けた支援を進めていきます。



【対策会議】

7　中部地区畑作営農改善推進協議会企画班会

９日、普及センターで開催し、班員15名が出席しました。

平成24年度に作成した中部地区畑地かんがい営農指針の改訂に係る記載事項や、安価に散水器具を導入するためのプラスチック製スプリンクラーの試験的利用結果について情報共有しました。

今後も関係機関と連携しながら畑作営農の推進及び畑かん利用の推進に向けて検討を進めていきます。



【企画班会】

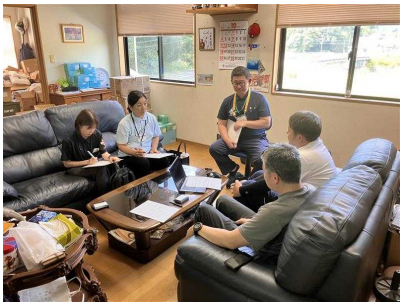
8　食品加工事業者へ加工業務用野菜受入状況等調査

14日、普及センター及び関係機関の職員６名で延岡市の事業者を訪問し、加工業務用野菜の取扱の可能性について協議しました。

県外からタマネギを調達し、冷凍食品工場や地元スーパーにスライスやみじん切りを卸しており、中部管内産も取り扱う可能性があるとの話を聞くことができました。

また、加工に適した規格や単価についても聴取することができました。

今後も県内の加工事業者からの話を聞き、情報提供していきます。



【加工事業者との協議】

9　水田裏作のタマネギ試験栽培ほ場の設置

15日、新名爪地区のほ場で定植が行われ、生産者17名、関係機関10名、普及センター１名が出席しました。

レンタルした乗用定植実演機を用いました。この地区では、初めてのタマネギの機械定植であり、参加した生産者からは「機械の各部分の仕組や注意点が分かった」との感想が寄せられました。

今後もほ場の様子を確認しながら、産地の育成に向けて支援していきます。



【タマネギ定植機の説明】

10　新木地区基盤整備事業推進委員会

８日に佐土原町新木地区自治公民館で開催され、生産者９名、関係機関11名、普及センター２名が出席しました。

共有地代表者選任や青地への編入手続きの他、営農計画についても協議しました。普及センターからは、試験栽培の進捗状況について情報共有しました。

今後も営農計画の策定及び産地の育成に向けて支援していきます。

11　水田裏作のブロッコリー、ケール試験栽培ほ場の設置

18日、佐土原町新木地区で定植が行われました。新木地区では、水田裏作での露地野菜栽培は初の試みです。

定植には、販売先である加工事業者が自社で使用している定植機を利用しました。

今後はホウレンソウも栽培する予定ですので、ホウレンソウも含め産地の育成に向けて支援していきます。



【野菜定植機の実演】

【重5・有機農業の拡大による環境保全型農業の推進】

12　綾オーガニックスクールで水稲坪刈り調査

16日、受講生ら計６人で、品種試験の坪刈りと成熟期調査を綾町上畑で行いました。

有機栽培では化学合成農薬を使用できないため、特にいもち病に強い品種の選定が重要となっており、今年度は県内外の７品種で試験的に栽培を行っています。

坪刈り調査では、穂数等の計測といもち病の発生程度などを行いました。

受講生からは、症状の判別などの質疑があり、普及センターからは穂いもちの特徴や多発要因などの説明を行いました。

今後、調査結果のとりまとめや試験成績の検討を通じ、有機米の生産技術が修得できるよう支援していきます。

13　有機露地ナスほ場における害虫・天敵調査

22日、綾町内のほ場において調査しました。

バンカー植物（ソルゴー、バジル、マリーゴールド）を導入することで、害虫であるミナミキイロアザミウマなどの飛来を抑制し、同時に天敵昆虫であるヒメハナカメムシなどの定着を促す効果を検証するものです。

今後は、これらの取り組みを通じてナスの食害軽減効果を検討し、地域における有機栽培技術としての普及・推進を図っていきます。



【天敵調査】

14　ダイコン栽培基礎講習会

15日、綾オーガニックスクールの事務所において、スクール生３名を対象に開催しました。

ダイコンの基礎概要や部位別の特徴、栽培スケジュール等、具体的な説明を行いました。参加した生徒に対するアンケートからは、用語や栽培管理に対する理解の深まりが感じられ、今後の栽培に対する不安解消や技術習得への意欲向上につながりました。

次年度以降の講習会についても引き続き協議を行っていく予定であり、新規就農者の着実な栽培技術の習得に向けた支援を継続して実施していきます。



【ダイコン栽培基礎講習会】

15　新規就農者の就農状況調査（綾町）

23日、綾町の農業次世代人材投資事業（経営開始型）、新規就農者育成総合対策事業（経営開始資金）受給者７名を対象とした就農状況調査が実施されました。

町と普及センターが圃場を巡回し、収支状況や栽培管理、課題等を聞き取りました。調査を通じて、受給者自身による課題抽出や青色申告を活用した経営の振り返りを促しました。

今後も調査結果を活かし、関係機関一丸となって新規就農者の定着と経営安定を支援していきます。



【綾町就農状況調査】

16　綾オーガニックスクール企画運営委員会定例会

29日、（合）アヤオーガニックワークス事務所にて、綾オーガニックスクールの企画運営委員会定例会が関係者５名により開催されました。

研修生の近況や実習・座学の進捗、国庫事業を活用した施設整備、令和９年度の事業予定等について協議しました。

今後も関係機関と連携して支援を継続します。

2　地域課題一覧に関する普及活動

1　国富町で飼料用稲種子生産の支援



【採種ほ場の様子】

７日、国富町塚原において、ミナミユタカの種子生産に取り組む組合員21名を対象に、農協、役場、および関係機関と連携し、ほ場審査を実施しました。

14日、同組合役員及びJA職員とともに、倒伏状況の再確認、収穫適期の判断、ならびに作柄把握を目的とした坪刈り調査を実施しました。

23日、これらの調査結果や本年産の課題などを組合員の全体会で説明を行いました。

今後も生産物審査の結果などを踏まえ、安定した種子生産の支援を継続していきます。

2　せんぎり大根生産者大会



【せんぎり大根生産者大会】

２日、国富町役場において、大根担当者や生産振興会の会員等24名が参加し開催されました。

令和７年度の事業実績や令和８年度の事業計画等に関する議案審議が行われた他、JAより昨年度の生産実績や情勢報告がなされました。

昨年度は、生育が良好であったことから、総生産量が対前年度比263％と計画を上回る実績となった。また、市場価格が高かったことから、現在在庫が残っており、量販店等での価格競争や販路拡大が課題となっていることが共有されました。

今後は、町民祭での販売提案や「ひなたマルシェ」への出品、「学校給食への利用拡大」に向けた交渉など、新規販路の開拓や販売強化に向けた取組を支援していきます。

3　水の郷綾施設有機きゅうり研究会がMIYAZAKI-GAP団体認証を取得



【認証証交付】

１日、綾町役場において、生産者３名及びJA綾町地区本部等13名が参加し、認証書の交付が行われました。

同研究会は、昨年度「ひなたGAP」の認証を取得し、今年度は国際水準ガイドラインに準拠した「MIYAZAKI-GAP」認証に向けて、半年にわたり勉強会を重ね、食品安全や労働安全、環境保全等の改善に取り組んできました。

認証書を受け取った同研究会からは、「GAPに取り組むことは非常に重要であると思う。綾町のきゅうりはニーズがあるためアピールしていきたい。」とのコメントがありました。

今後、GAPの定着へ向けた支援を行っていきます。

4　JAみやざき宮崎中央地区本部菊部会国富支店の現地検討会



【現地検討会】

22日、国富町において、生産者８名、関係機関５名が参加し、開催されました。

会長挨拶後に、JAから直近の情勢報告、年末出荷の予約販売分の出荷案について説明がありました。普及センターからは、アザミウマ類の害虫対策について説明し、キクのICMチェックリストの実践を啓発しました。

その後、部会員及び関係機関で全戸を回り、年末出荷作型の消灯前の生育を確認しました。概ね生育は良好でした。生産者や関係機関間で生育や管理状況等について意見が交わされ、有意義な会となりました。

5　JAみやざき宮崎中央地区本部ダリア目揃え会及び販売会議



【目揃え会】

21日、宮崎市で、生産者７名、関係機関６名、花き３市場３名が参加し、開催されました。

現地では、花を見ながら出荷規格の確認が行われました。

室内検討では、JAの担当者から令和８年度の販売状況や栽培品種の構成について説明があった後、各市場から全国的なダリアの動向や宮崎のダリア産地が担う役割等の説明がありました。普及センターからは、NAMAHAGEシリーズの第14期生の作を通した特性調査の結果を報告しました。これらの情報を踏まえ、生産・販売方針等について活発に意見交換が行われました。

今後とも地域の気象に合った品種の選定等について支援していきます。

6　木花地区有害鳥獣被害防止対策研修会



【鳥獣対策研修会】

22日、木花地区交流センターで開催され、20名の関係者が参加しました。

家庭菜園を中心に野生鳥獣の被害を受けているため、野生鳥獣の生態や県内の被害状況、鳥獣被害対策の基礎を中心に説明しました。

参加者からは、「シカの被害が大きいことに驚いた」との感想がありました。

